

自分たちだけでなにかしようとしなさい・仁和寺

「仁和寺 霊法館 名宝展 国宝初公開」という文字を、駅のデジタル掲示板をはじめ、新聞やテレビでよく目にする。仁和寺の情報を発信する力に興味を持ち、仁和寺がどのような活動を行い、広報・メディアを活用しているのかを調査をするため、令和2年（2020）12月1日に開催された近畿教区教化研究会議の翌日、12月2日に仁和寺へ行った。

令和元年（2019）、秋田県で開催した東北教区教化研究会議でご講演頂いた福井良應師（大阪芸術大学・大阪経済大学講師（マーケティング論）、真言宗御室派NEXT委員会委員、真言宗興山寺副住職）に対応してもらい、吉田正裕師（真言宗御室派宗務総長）、金崎義真師（真言宗御室派宗務所拝観課長）、の2名も同席し、話し合いを持った。話し合いが進む中で、

「活用できる資源を最大限活かす」

「社会の変化・ニーズに適応していく」

「自分たちだけで何かしようとしなさい」

という考えが、今の仁和寺の発信力の源となっているように感じた。例えば、地元アーティストの作品を展示するスペース、予約をして庭園を眺めながら昼食をとれる空間「場」の提供。地元の大学と共同して作成した、観音堂の内部を再現



宿坊「松林庵」

し解説してくれるVR体験などがある。また、1泊100万円の宿坊「松林庵」では、日本財団「いろはにほん」プロジェクトの「文化のリサイクル」「文化財の自立」という目標に着目し、プロジェクトへ参画、建物の修繕や庭園の整備など総工費約1億5700万円の約8割にあたる助成金を財団から交付してもらい完成させた。最近では、1組2～7名で仁和寺の僧侶が1名付き添い、通常非公開である金堂（国宝）や五重塔の初層内部（国の重要文化財）を案内するプライベートツアーが人気となっている。このツアーは、単なる観光資源ではなく、建物や仏像の説明やコミュニケーション能力が必要となるので、担当する僧侶の質の向上にもつながっているという。また、20年前ほど前から問題となっていた、仁和寺境内の裏山へのごみの不法投棄に対しても、内部の人間だけでなく「OMURO88清掃登山」「境内清掃」といった清掃ボランティアを募集して対応している。

フォーマルな資源だけではなく、インフォーマルな資源も活用しながら、委託出来るところは外部へ委託することで、内部の負担も軽減し、「仁和寺」という名前の持つブランド力を最大限活用することで、コロナ禍においても人の流れが絶えないところとなっている。



仁和寺境内の案内看板